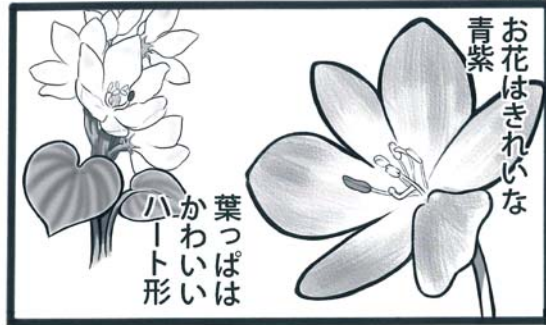


第57回 ミズアオイ

カコちゃん かほくがたチルドレン

ヒロ



古称はナギ、ミズナギという雅な名前の美しい草です。秋に青紫の小さめの花を咲かせます。万葉集に「醬酢に蒜搗きかてて鯛願ふわれにな見えそ水葱の羹（ひしほすにひるつきかててたひねがふわれになみえそなぎのあつもの）」と詠われています。宮廷歌人の長忌寸意吉麿（ながのいみきおきまろ）が詠んだ歌で、当時、ミズアオイが普通に食されていたことがうかがえます。食用として宮廷の園圃でも栽培されていたとのこと。

万葉集には、「春霞春日の里の植ゑ子水葱苗なりと言ひし枝はさしにけむ（はるかすみ かすがのさとの うゑこなぎ なへなりといひし えはさしにけむ）」という和歌もあります。

大伴宿禰駿河麿（おほとものすくねするがまろ）が坂上二嬢（さかのうへのおとをとめ）に求婚したときの一首とのこと。葉っぱがハートのマークにも見えなくはありませんが、それが当時、求愛の意味を持っていたということではないと思います。

石川県では絶滅危惧Ⅰ類（EN）と指定されています。全国的には環境省の準絶滅危惧となっており、現代では希少な植物となっています。数十年前までは、田んぼの中や水路で普通にみられたとのことですが、除草剤の普及や水路の人工化により、急速にその姿を消しつつあります。

河北潟周辺で生育するミズアオイを観察していると、色が濃く花弁が小さいタイプと、色がやや薄く花弁がやや大きい花の色の違う2つのタイプがあるのが分かります。多分、色の濃い方が本来の河北潟の系統ではないかと思っていますが、はっきりとした証拠はありません。現在、ミズアオイは、河北潟周辺の田んぼにはほとんど

生育していません。田んぼの排水路や干拓地のレンコン田などにみられます。また意外なことに、市街地の水路などにわずかにみられます。

20年前のエピソードになりますが、金沢市東蚊爪にある「こなん水辺公園」が造成されているとき、一時的にミズアオイの大発生がありました。もともと水はけの悪い水田だった場所ですが、造成が決まり水田耕作が行われなくなったことにより、大群落として出現したものと思われます。その後、すぐに造成が始まりましたので、この大群落は1年限りの出来事でした。河北潟周辺のほ場では休耕田などが生じたときにこうしたことが起こるようです。（文：高橋 久）